

13. 社会福祉協議会

週	課題（ねらい）	実 習 内 容	段階	指導上配慮すること・必要な価値・知識・技術（その他、参考となるテキスト・教材等）
第1週	<p>事前学習を補完するとともに組織機構の概要全般を理解する。</p> <p>①当区の概要理解 ②社協の使命、性格、活動原則、機能等に関する理解 ③社協の機構、事務局組織、事務分掌に関する理解 ④社協の事業およびその方針・実績等に関する理解 ⑤活動財源の理解（共同募金・賛助会費等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーション ・職場（施設）案内 ・講義・観察（業務全般） ・法人運営事業（組織・計画・事業・財政等）学区社協活動支援事業、ボランティア活動支援事業、福祉ネットワーク推進事業、生活福祉資金貸付事業、日常生活自立支援事業、入浴サービス事業 ・併設施設（老人デイ、老セン、地域包括支援センター）の見学&説明 ・区内巡回&説明 ・スーパービジョン 	職場	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習成果を報告させる ・事業の個別性を考慮して、可能な限り各担当者から説明等を受ける ・外勤に同行し、区内の地理や特徴を説明
第2週	<p>①学区社協支援・ボランティアセンター事業など地域支援を中心的に担う職員の業務体験</p> <p>②日常生活自立支援事業・生活福祉資金など個別支援を中心的に担う職員の業務体験</p> <p>③行政・関係機関・団体等のコーディネートを中心に担う職員の業務体験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学区社協の活動支援への同行、懇談会・行事等への参加 ・健康すこやか学級事業等の住民による地域福祉活動への同行同席 ・他機関団体との地域福祉ネットワーク事業への参加 ・講座の企画運営・会議・相談調整への同行同席 ・各職員担当者会議への同行同席 ・ボランティアグループ、当事者組織活動への参加 ・日常生活自立支援事業への同行 ・スーパービジョン 	職種	<ul style="list-style-type: none"> ・P D C A サイクルを意識させ、コミュニティーワーク、ケースワークについて理解を深める ・実習生の事業参加、同行、訪問に際しては事前に依頼、調整を行っていく。
第3 4週	<p>【ソーシャルワーク実習の狙い】地域基盤のソーシャルワークを①を軸として、②をプログラムとして学ぶ</p> <p>①地域に潜在化しているニーズの発見及び解決に向けた調整・システムづくり（住民主体の解決に向けた支援、機関間連携ネットワーク、ケアシステムの構築、資源開発）</p> <p>②上記①に関連する下記事項を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズキャッチシステム・方法 ・事業化（企画・立案）及び運営、ソーシャルアクション ・住民組織、福祉活動へのサポート、エンパワメント ・住民への普及、啓発、福祉教育 ・権利擁護システム 	<p>①小地域福祉活動の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康すこやか学級、子育てサロン等の住民福祉活動の場に参加し、参加者・活動者に積極的に聴取を行う ・地区の各種統計情報、文献資料の収集・分析 ・地域支援計画を作成し、評価・指導を受ける <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報の意義の説明と作成 ・住民アンケート作業の支援 ・各相談業務の記録・統計分析 ・地域ケア会議等への参加・考察・地域間の比較 ・各種イベント、大会の意義や企画・準備過程における説明、参加 ・スーパービジョン・評価 	SW	<p>基本、担当職員が実習生に同行する。実習生のみの場合、実習課題に応じたプログラムを先方と調整のうえで、実習生が訪問、参加、聴取等行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習生が希望する内容とソーシャルワーク実習のコーディネートがポイント ・地域での議論の場に同席し、どのようなニーズから地域の活動が生み出されるか、またそこにワーカーのどのような支援が入っているか、その一連のプロセスに立ち会えるよう調整する。 ・実習成果の報告